

別冊 I メイト便り第 17 号

I メイト 交流の愉しみ

ーアジ風に乗って I メイト交流はひろがるー

特集：アフター Covid -19（新型コロナウイルス）

NPO 法人 アジアの新しい風

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻 2-18-22-414
TEL/FAX 03-5426-6714 <http://www.npo-asia.org>

2021 年 9 月 12 日 発行

まえがき

I メイト交流担当理事 奥山寿子

2020 年始めに COVID-19 がこの地球を襲い始めて以来、ウイルスの惨禍は瞬く間に世界中に広がる恐ろしさを目の当たりにしています。国情の違いによってウイルスに対峙する考え方や姿勢に違いがあるにせよ、共通するのは行動自粛に対する人々の戸惑い、医療体制の不安、経済的な打撃、そして人々の精神的なダメージです。各国が今まで見たこともないウイルスの脅威に立ち向かった 1 年半でした。

昨年の別冊は元 I メイト学生を対象に、「コロナ禍で思うこと」と題して 10 名の寄稿文を掲載しました。あの頃は「来年は留学生も戻り、通常の生活が戻っているはず」と楽観視して、自粛の期間をどのように過ごしたか、自分の生活の見直しやコロナ禍の生活を書いてもらいました。読み返してみると、1 年前の状況が浮かんできます。

あれから 1 年。状況はまだ混沌としています。感染症の専門家が予想したとおり、第 2 波、第 3 波、第 4 波、第 5 波と、次々と大きな波が押し寄せています。もしかしたら終わることのない戦いになるのかも知れないという不安もあります。学生たちは登校も禁止され、オンライン授業を受け、友達とも会えず、また社会人もリモートワークが定着し、自宅でパソコンに向かう生活が何か月も続いています。若い彼らはこの事態をどのように捉え、コロナ後の社会をどのように考えているのでしょうか。

若い人たちのウイルスに対する見方は、多くの会員の世代とはまた違ったものがあるはずです。彼らの不安を乗り越える知恵や意欲、そしてエネルギーに触れたいと思いました。今年は卒業生だけでなく、現役の I メイト学生にも「あなたが夢見るコロナ後の世界」「コロナ後の世界」というタイトルで原稿を募集したところ、全部で 21 の原稿が集まりました。

交流校を代表して、タマサート大学のシリワン先生からも大学の取り組みを紹介していただきました。先生の寄稿文には、オンライン授業に移行する過程での混乱があったと書かれていますが、これを機に大学が改革に取り組んでいる様子がわかります。

COVID-19 の出現によって、人の移動が制限され、国境には太い線が引かれて、それを容易に跨ぐことができなくなりました。グローバルリズムが後退し、ナショナリズムが復活するかに思われましたが、ワクチンの研究開発や各国への供給を見るに、人類共通の惨禍と考え、ともに協調して乗り越えようとする機運も見られます。

人間は惨禍にあっても、前向きに生きていくものだと思っています。大学も学生たちも、そして社会人になった元 I メイト学生も、たくましくコロナ禍を生き抜き、そして未来に夢を持っている。ここに人類の進化が見られると思っています。

目 次

まえがき	I メイト交流担当理事	奥山寿子	1
1. パンデミック下のタマサート大学日本語教育			
	タマサート大学教養学部日本語講座課程	ムニンタラウォン・シリワン	3
2. I メイト学生			
・コロナ後の世界をどう生きる	鐘希君	(清華大学)	4
・コロナ後をどう生きるかは私たち次第	王淑君	(清華大学)	5
・コロナ後の世界について	クスマー・コンカーム	(タマサート大学)	6
・コロナ後は思いやりの世界に	シャノンヤー・キーラー	(タマサート大学)	7
・誰も取り残されない社会に	ド・テイ・キム・タイン	(貿易大学)	8
・環境安全に考慮した経済発展	グエン・テイ・カン・フエン	(貿易大学)	9
・手の届く範囲で助け合おう	ムハンマド ファレル	アルファーザー (パジャジャラン大学)	10
・以前のように	ファリー	デルファイヤ (パジャジャラン大学)	11
・コロナはチャレンジでもありチャンスでもある	石忻然	(清華大学大学院)	12
・各国の協力によって新たな世界に	梁宇晗	(清華大学大学院)	13
・コロナとの戦いは激しく残酷な戦いである	王岩	(清華大学大学院)	14
3. 元 I メイト学生 (OBOG)			
・運命共同体の構築に向かって、国際協力と交流を強化	崔振宇		15
・僕は日本語教育事業に、生きる意味を託そうとおもう	王耕偉		16
・困難だが、絶対負けぬ：ベトナム人のコロナとの闘い	タオ・ティ・イエン		17
・技能実習制度の見直しで、日越関係の強化を	ダム・ホアン・ジャン		18
・エマちゃん誕生！日泰の懸け橋になれるように育てたい	仲村クスマー		19
・国民の一致協力と国際協調で乗り切る	グエン・バン・ブー		20
・自分の人生を左右したコロナウイルスに憎しみと感謝	レイニ	ドウィー アングライニ	21
・当たり前の生活を取りもどしたいだけ	ファティマ	ジューリア	22
・僕のヒロシマ訪問記・もっと国際協調を！	王彦珺		23
・人間は小さな存在・違いを乗り越える団結と相互理解を！	陸映睿		24
あとがき	OBOG 会担当理事	上 高子	25

タマサート大学からの報告

COVID-19 パンデミック下のタマサート大学日本語教育



タイ国立タマサート大学教養学部 日本語講座課程
ムニンタラウォン・シリワン

タイでは新型コロナウイルスの感染拡大にともない、昨年3月26日に全国緊急事態宣言が発出されました。感染リスク防止のため、在宅勤務が開始され、教育機関では対面授業が停止され、タマサート大学においてもオンライン授業への変更を余儀なくされました。

タイの教育機関は遠隔教育の歴史が浅く、当時はオンライン授業に必要な設備・機材が十分ではありませんでした。ほとんどの語学教員はITスキルが低く、また、学期の途中であったため、急遽、授業内容や評価方法を変更せざるを得なくなり、大変困難な状況に陥りました。学生の安全と健康を第一に考えるとともに、どのように学業を継続させるのかが大きな課題でした。

オンライン授業の実施にあたっては、オンライン授業プラットフォームの勉強会が設けられ、大学から教員に対して、オンライン機材やプラットフォームのライセンス認証が付与されました。教員、学生共に、オンラインのしくみを学び、試行錯誤で問題や課題を解決しながら、授業に取り組みました。

当初はかなり混乱がありましたが、一時は感染者が0となり、対面授業が実施できるようになりました。しかし、問題は、留学や外部との対面活動が行えない状況の中で、外部の日本人との交流活動や日本の大学での体験をどのように展開させるかという点でした。

これには幸いにも、日本の大学やNPO団体より協力を得て、オンライン授業や諸活動を通して、日本の方々と触れ合う機会を設けることができました。NPO 法人アジアの新しい風主催の新春交流会や、大阪大学により実施されたオンライン授業「日本思想文化学研究基礎」などです。

インターンシップについては、対面の他、オンラインやハイブリッドでの授業を実施しました。海外インターンの受入れは、タイへの入国が難しいため、対面ではなく、オンラインでのライブによる交流活動を行いました。

新型コロナの感染拡大により、多数の死者や経済的打撃を受けました。教育面でも同様に様々な問題に直面しました。しかし、一方で、私たちは別の新たな機会を得たことも事実です。教育者は従来の教育を見直すことができ、教育の新たな方策、指導方法、活動を作り出す機会となりました。コロナ禍において人々は距離を置かざるを得ませんが、教育者の努力とテクノロジーの発達により、日本語教育はもう一段階進歩し、距離を越えて、教育の提供を実現できるようになりました。コロナ禍における日本語教育の展開は、「教室の中だけにとどまらない」という新たな機会を生み出したと考えます。



コロナ後の世界をどう生きる？



鍾希君
清華大学

新型コロナウイルス感染症のパンデミックをきっかけに、世界は今大きく変わっている。東京オリンピックがほぼ無観客のまま開催されたことが、その象徴的な存在であろう。つまり人々はすでに人と人の間に物理的な空間をおき、冷たく、しかも自由が大きく制限される中で、とにかく生存だけを求めるという生き方に慣れてきたのだ。これは別に日本或いは日本人社会だけにあるものではない。世界的に見てもこれは一般化している。多くの人々が在宅勤務にほぼ無神経になっているし、飲み会さえオンラインで行われても不思議がらない。ましてやネット通販や出前などはとくに「日常茶飯事」となっている。

ところで、イタリアの哲学者アガンベンはこの「例外」の社会状況に慣れてきた人々の感覚こそが危ないと警鐘を鳴らしている。それは、この感覚の本質は人々が「生きる」こと以外—アガンベンの言葉を使って言うと、「剥き出しの生」以外—何も求めなくなったからだという。こうした風潮の中で、今まで我々がずっと大事にしてきた移動の自由や病中にある者を見舞う慈悲の心など全部否定され、却ってそれを厄介視するような部分がある。つまり他者というものは自分を病気に感染させる潜在的な危険物だとしか見えなくなっているのだ。

アガンベンはこの自分の「生き残る」ことしか頭にない社会風潮を、非常に心配している。それは、この風潮がさらに浸透すれば、政府の一時的に取っている「例外措置」が「一般化」され、何でも無抵抗に受け入れられるようになる可能性があるからだ。だからアガンベンは、人々は必ず緊急事態宣言というものの本質は人々の自由を制限するものであることを忘れてはならない、と呼びかけている。

移動の自由そのものの問題だけではない。移動の自由が制限されることによって、例えば家庭内の暴力や虐待なども、この特別措置が取られている間に生じた自我と他者の間の距離によって頻発している。自分を守ることと他者を守ることがこれだけ緊密であることを、恐らく今ほど実感できる機会は、これまではなかったのではないと思われる。自由と安全の問題は、今回のコロナ禍によって大きな問題として提起されたと言えよう。自由は我々人間にとって奪われてはならない権利である。例外措置はあくまでも一時的なものであり、むやみに拡大するのも、必要以上に長く居座らせるのも決して看過できるものではない。今は人の命を救うために不可欠なものとして受け入れられているが、だからといって、政府ないしお役所がこれを持って市民への監視を正当化する理由にはならない。

想像力の枯渇がよく指摘されている今の人々にとって、アガンベンの呼びかけは非常に有意義なものと言えよう。「生き残る」問題はもちろん大事であるが、しかし自由の権利と慈悲の心こそ社会「常態」であることを、忘れてはならない。とくにコロナ後の世界においては。

I メイト会員から一言

鐘さんは、2019 年秋・冬に慶応大学に留学し、今年からは清華大学大学院に進学予定です。日本文学にとどまらず西洋哲学など幅広い教養に裏打ちされた鐘さんのメール、レポートを読むことはコロナ禍の自粛生活の中で大きな楽しみです。
(西澤逸実)

コロナ後をどう生きるかは私たち次第



王淑君
清華大学

新型コロナウイルスのせいで、人々の生活は大きく変わったと言えよう。それが経済のあり方から社会の仕組みまで、人々の生活の隅々までが影響を受けている。学生にとってはむしろ、一番大きなインパクトを受けているのは授業の受け方である。とくに授業のあり方はコロナ発生以前とは本質的に変わりつつある。

そのもっとも顕著な変化の一つが、以前の伝統的な授業のやり方がオンライン授業に切り替わったことであろう。もちろん、以前もネット授業自体、あったことはあったが、しかし極めて小さな範囲内に採用されていた授業方式であった。ところが、コロナウイルスの影響で自宅自粛が要請され、学生が家で授業を受けることが一般化した。通信技術のさらなる発展によって、将来はもっと新しい授業方式が創出されるかどうかは今の段階ではまだ分からないが、私はまず今広く浸透しつつあるオンライン授業のいいところと良くないところを考えてみたい。

まずオンライン授業のいいところは、時間と空間の制限がないことだ。いつでもどこでもパソコンを開ければ授業を受けることができる。これは、特に清華大学のようにキャンパスが広い大学の学生にとっては非常に好都合であり、少なくとも毎日の通学時間が大きく節約され何より雨とか雪とか、悪天候に影響されず学生が授業内容だけに集中できる。

良くないところは、恐らく教員が学生の状態を確認しにくく、対面式の授業のように、心の通った講義ができないという点だろう。それにパソコンのスクリーンを開ければ多くの授業情報が同時に現れ、却って授業に集中できなくなる可能性がある。

もう一つの問題がある。この問題は学校というものは果たしてなんのためにあるのかという問題とつながる。ただ単に知識を広げる場なのか？それとも義務化された授業を受ける空間なのか？言うまでもなく、この二つは学校のあるべき機能の一部でしょう。しかし言うまでもなくこれは学校のすべての機能ではない。大学は、とくに中国の大学は若者が社会人になっていくための準備機関でもある。従って、学校も社会を強く意識してその姿と意志を示さなければならない。言い換えれば、親を離れて学生たちの自立を促すような場でなければならないと思う。私に言わせると、大学での生活はミニ社会でなければならないと思う。

ところで今、大学が普段の教室での対面式の授業を再開した後、依然として寮で授業を受ける学生が多いように見える。理由は「わざわざ教室に行って授業を受けるのは面倒くさい。オンライン授業のほうがむしろいい」という。この意識の変化が今後の社会生活にどのような影響をもたらすか、その答えはまだ分からない。とにかく、コロナ後の世界は変わったようだ。しかしどう生きるかは私たち次第と思う。

I メイト会員からひと言

王さんとは、去年の秋から交流を開始しました。今では毎週やり取りをしています。彼女のメールからは真面目で勉強熱心な人柄がわかります。日本の歴史、文化にとても詳しく毎回のメールが楽しみです。また自分の考えもしっかり持っていて2000年後世代の考え方も教えてもらっています。今後とも役に立てるよう楽しく交流を続けたいです。（川口祐子）

コロナ後の世界について



クスマー・コンカーム
タマサート大学

新型コロナウイルスがまたたく間に世界中に広がり、経済や医療などをはじめ市民生活に大きな影響を与えています。約2年が経過した今、人々はニューノーマルという新しい生活様式を利用し始めました。

日常生活にテクノロジーをもっと活用していることは目立ったものの一つだと思います。例えば、会社員は毎日会社に通わなくて、自分の家でもどこでも仕事をする事ができ、ズームやスカイプやグーグルミートなどのビデオを使って、会議に参加することもできます。学生たちも自分の家で勉強できるので、オンライン授業も増えています。その理由で、ビデオ会議などを使える人、テクノロジースキルを身につける人がこれからのビジネスに求められていると思います。ほかには、Eコマース(電子商取引)です。たくさんのお店がお客様の目を引くためのキャンペーンを始め、新製品をデザインし、オンラインショップで売ります。レストランやお店なども宅配サービスを始めます。一方、お客様も以前よりも電子決済を使うと思います。それに、またたく間に広がった新型コロナウイルスによって国の医療対応への問題があったことを認識することもできます。

この先、またパンデミックが発生する可能性があるので、政府は医療制度を早急に改善すべきだと思います。さらに大事なことの一つは経済です。新型コロナウイルスによって経済的な影響を多くの企業や個人が受けたので、失業者がたくさんいます。コロナ後、国の経済を回復するため、政府はその問題対策をして解決すると思います。タイの場合は、あり余る自然や多数の観光を利用し、外国人を迎え入れることと、国民の国内観光を促進することが景気回復の重要な方法の一つだと思います。

上記以外にいろいろなことがあると思います。新型コロナウイルスが発生して、人生・ビジネスのチャンスを逃がした人や、失業している人もいるし、家族を亡くした人もいて人々の人生を変えたと思います。私は世界中の人々が協力し合い、一日でも早くこの状況を乗り越えられるように心から願っています。

I メイト会員からひと言

私には孫娘のようなクスマーさんはアニメを見て日本語に興味を持ち、大学生になってから本格的に日本語の勉強を始めた一人です。最近では、もっと日常会話ができるようにと、スカイプを通じてのチャットを楽しんでいます。

(石田義夫)

コロナ後は思いやりの世界に



シャノンヤー・キーラー
タマサート大学

2020年初めから新型コロナウイルス感染症が世界中に拡大してしまいました。学校に行けないとか、思うように働けないとか、旅行が出来ないとか、そのような日が来るなんて誰でも思わなかったでしょう。2021年の夏現在では多くの国が普通の生活に戻りましたが、また感染者が増えている国もあります。今は人間がコロナウイルスと一緒に暮らして、二年間も経った状況です。私は世界が早く普通に戻るように、必死に祈っています。

新型コロナウイルス感染拡大の後、いろんなことが変わっています。例えば、学生達は学校へ行けません。皆さんは学校に行ったことがあるはずでしょう。どのような記憶がありますか。私は学校から貰ったものは知識だけでなく、友達も経験も一生忘れない思い出もできました。だから、学校に行けないこの時代の学生達は残念だと思います。でも、この時代の学生だけが経験出来ることもあるはずです。コロナウイルスの後により良く変わっているものはテクノロジーだと思っています。学校に行くことなく、プログラムやアプリケーションで勉強出来るとか、朝の満員電車に乗らずに家で仕事するとか、最近人気になった、「VTuber」と呼ぶ新しい職業とか、テクノロジーがこんなに早く発展するとは10年20年前だったら、絶対思わなかったでしょう。

コロナ後の世界は、おそらく誰もがお互いに近い思いやりの世の中です。この二年間で、皆が離されてしまったので、皆がもっと他人のことを愛しいと、思いやりで近づくようになるでしょう。私はよく友達と話して「コロナが終わったら一緒に旅行しよう!」とか「また一緒にご飯食べに行こう」とか言います。普通ならこのような言葉は言わないのに、離されているために私はとっても素直になったかもしれません。アジアの新しい風のオンライン交流会に参加して、自分と同じ日本語を勉強している人達や日本の生徒や日本人のIメイト会員と画面を通じて会話した時にも嬉しいです。

外国でも国内でも遠くても近くても皆が旅行をすることができて、オンラインではなく、たくさんの国の人と面と向かって会話をしている世界になるでしょう。いつか画面で会話するのではなく、皆さんと会えて、タイと日本のことを一緒に話を出来ればいいと思います。それにコロナが終わったら、日本にも行ってみたいです。その日がいちにちも早く来ることを願っています。

Iメイト会員から一言

六月を水無月とも呼ぶ話題から、無くて困った事良かった事は?と問うと、無くて困った事は勇気とか自信とか。JLPT試験が中止になったのは無くて良かった事かな(笑)と返信があり、日本語遣いのセンスに感心しました。(原谷洋美)

誰も取り残されない社会に



ド・テイ・キム・タイン

貿易大学

コロナは私たちのこれまでの生活を劇的に一変させた。人間は最も適応力のある生き物なので、パンデミックの発生に伴い、情報技術を目覚まししく発展させた。最近、誰もが学校のオンライン授業のフレーズや「E-コマース」、「E-ウォレット」などの力強い成長について耳にしている。

たったこの2年足らずの間に起こったコロナによる世の中の著しい変化は、過去の大きな技術革命に肩を並べることができるほどである。

パンデミックは人の結びつきを変え、全てはデジタル化された。『間隔はあるが遠くない』、コロナ後に広く言われたスローガンである。「ズーム」、「スカイプ」、「チーム」など、オンライン会議アプリケーションの爆発的な増加が見られ、家族や友人との再会でも、獣医とのペットの予約でも、オフィスでの会議でも、同じ部屋にいなくても、オンラインですぐに会え、用事を済ませることができる。このオンラインによるコミュニケーション手段は今後も継続し、さらに拡大する可能性が非常に高い。要するに、人との接触を避けるコロナ対策の技術のお陰で、距離はまったく邪魔にならなくなったのである。

しかしコロナによる技術革新がもたらす反対の側面も深刻である。情報世界の発展が速すぎると、そのメリットを受け取れないお年寄りや貧しい人々、テクノロジーにアクセスできない人々、機器の更新についていけない人々など、一言で言うと、『取り残された人々』のグループが存在するようになる。「デジタル化」、「A I」、「バーチャルリアリティ」は、おそらく私たちが思っているよりもさらに大きな被害をこの人々にもたらすことだろう。コロナ後の情報技術は多くの仕事で人々を機械に置き換えるようになり、もはや「生涯のキャリア」の概念は必要なくなる。一例を挙げれば、エレベーターの案内員、銀行の窓口業務、スーパーのレジ係などの仕事はおそらく10年後にはなくなっているだろう。廃棄されるか変更されるのである。

ウォーレン・バフェットは、「早く行きたいなら一人で行きなさい。遠くへ行きたいなら一緒に行きなさい」と言った。コロナ後の世界は無限の可能性を秘めた新しい世界であり、私たちはその未来に生きるためにすべてを準備している。A I、遺伝子工学、ビッグデータのようなものは、私たちが一緒に新しい未来に行かなければ意味がない。みんながしっかり胸に刻んでほしいことは「誰も取り残されない社会になる」ということである。

I メイト会員からひと言

写真とコーヒーをこよなく愛するタインさん。将来の夢はハノイ市内に日本スタイルのコーヒーショップを開くことだそう。彼女はコロナ禍の下、最近の生きづらい社会の人々にも的確でやさしい目を向ける。これからが楽しみ人だ。
(荒木春洋)

環境安全に考慮した経済発展



グエン・テイ・カン・フエン

貿易大学

コロナはどこから来たのか？コロナはいつ終わるか？なぜコロナパンデミックは人々と世界経済にこれほど大きな損害を与えたか？コロナパンデミックに関しては、こんなことばかり考えてきました。現時点において答えは分かりませんが、10年後には、いくつか答えが見つかる気がします。10年以内に世界経済は急速に回復し、発展し、人々は持続可能な社会に向けて、より強く行動するでしょう。しかし、盲目的に利益を追求するのではなく、環境安全と並行して経済発展を目指すべきだと思います。

最近の疫病の流行はウイルスによって引き起こされていますが、アウトブレイクがあった場合にのみ発見されます。森林破壊は、感染症発生の理由の1つです。アマゾン地域での調査によると、森林破壊が10%増加するごとに、マラリアに感染する可能性が3%増加します。今日、野生生物や家畜やペットの国境を越えた取引も増加しています。それらの取引が違法で、検疫や監督が行われなければ、病気の伝染のリスクが高まります。新型コロナウイルスの起源は不明ですが、流行は野生生物に端を発し、野生生物取引に直接関係しているという意見も多くあります。

私たちは、日常生活の中でも環境安全に貢献することができます。まず、環境安全に配慮した製品をできるだけ活用します。例えば、私達が毎日使っている商品のひとつが買い物袋です。レジ袋の代わりに、紙や布の袋を使いましょう。また、学生はアースアワー、世界環境デーなどの環境運動に積極的に参加できます。さらに、就職活動を行う学生は、環境に配慮した活動をする企業を選択します。

また、オフィスで環境安全につながる取り組みを行うこともできます。新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、多くの企業でテレワークを推奨する動きが活発になっています。いくつかのグローバル企業の取り組みや調査から、リモートワークは「CO₂排出削減」「電力消費削減」「ごみ排出削減」に貢献出来ることが分かっています。

過去には環境を考慮した経済政策がありましたが、その範囲はまだ狭く、一貫性がありませんでした。今、すべての個人と企業が環境のために積極的に行動することにより、私たちの住む社会を先進的、かつ安全なものにしていきたいと思います。

I メイト会員からひと言

「コロナ後の10年」のテーマに対し、「環境安全に考慮した経済発展」という視点の高さに驚きました。実際、地球温暖化で融解した氷河から未知のウイルスが発見されるなど、フエンさんの主張は、大変大事なポイントだと思います。(三木京子)

手の届く範囲で助け合おう



ムハンマド ファレル アルファーザー
パジャジャラン大学

コロナ感染が発生してからもうすぐ二年が経ちます。私たちは「ニュー・ノーマル」という新しい生活に少しずつ馴染んできましたが、他の人はそうではないかもしれません。数か月前、インドネシアのコロナ感染者数が増えていました。その結果、政府はもう一度活動の制限という「コミュニティ活動に対する制限の施行」を行いました。

この制限のせいで、人々は外での時間や場所が限られて、生活がちょっときつくなりました。例えばコンビニの営業時間は午前 10 時から午後 8 時までになりました。喫茶店やレストランもテイクアウトしか受け取り出来ません。公共交通機関もそうです。バスや電車にのるには公式な証明書がない限り、乗ることができないと私の友人が言いました。なお皆はほとんど家に引きこもり状態です。

大学生として、この状況は厳しいです。下宿にいる学生たちは家に帰られず、今でもずっと下宿に住んでいます。授業は今もオンラインで行われているゆえ、電波が悪いところに住む学生たちは授業を受けるのが困難と聞きました。一番驚いたことは、大学の新入生はオンライン授業のせいで、今でもまだ大学に行っていないことです。将来授業がまたリアルになって、大学に行ける時は混乱すると思います。

経済の状態も悪いです。大勢の人が仕事を失い、生きるために新しい仕事を見つけなければなりません。なので政府が「コミュニティ活動に対する制限の施行」を行うとしても、皆はお金を稼ぐために活動制限を破り、そのせいでコロナの感染者数は増える一方になります。私の友人の何人も、自分の家族の経済が悪くなるせいで、彼は授業料を支払えなくなって、脱落する可能性があります。

この問題を解決する方法は私には分かりません。私が出来るとはせいぜい手に届く範囲の人を助けることです。なので政府には期待しています。

コーディネーターからひと言

ファレルさんには I メイトはおられませんが、学生コーディネーターの一人として色々と頑張って協力してもらいました。

インドネシアはコロナ感染の始まりは遅かったのですが、感染の増加・拡大のペースは日本より早かった為、彼の原稿の通り日本の緊急事態宣言下より厳しい制限がかけられていて、学生さん達は勿論一般の人達も大変な生活を強いられている様です。20 歳そこそこの皆さんにとっては、我々の様なシニアとは大きく違った現状の受け止めと将来が感じられるのではないかと推察します。即ち、コロナ後の世界や将来に希望を持てというには酷かもしれません。

でもやはり、若さの可能性（インドネシアの平均年齢は 28 歳ぐらい）に期待したいと思いますし、政府に期待するだけでなく身近の共助（ゴトン ロヨン）を出来る限り拡げて欲しいと期待しています。

（鈴木一美）

以前のように



ファリー デルファイヤ
パジャジャラン大学

コロナ禍はもう1年半ぐらい経ったのに、まだ収まっていなくて拡大し続けることである。先進国でもコロナから完全に保護されるとは限らないのだ。また、コロナは人間生活に悪い影響を及ぼした。例えば、教育界では学校がオンラインで行われることになった。学生として、オンラインで学んでいるのは難しいと思っている。先生に直接質問したり友達と話し合ったりすることができなくなって本当に残念だった。

コロナの影響は教育界に限らず、友達付き合いでも与えた。コロナのせいで、友達付き合いはSNSでしか繋がっていないのだ。最初は大丈夫でうまくいった。しかし、今のところは変わったようである。なぜなら、友達付き合いはつまらなくなったものだ。会話の内容は退屈になってしまい、返事はどんどん減ってきた。みんなは内容にもう飽きたのだろうか。主に、学期休みの時だった。グループチャットは静かでまるで墓のようだった。友達と会えなくなって以来、友情が冷たくなる気がする。

その上、新しい問題が現れてきた。既読無視とはこちらのメッセージを相手に読んでもらったのに、返事を受信してもらわなかった状況だ。コロナが現れてくる前に、その状況はSNS機能で珍しいことではないと思う。しかし、コロナで既読無視された数が徐々に上昇してきているようだ。「既読スルー」と言われている。既読スルーされた経験を持っている私はこのような現象がかなりイラついて不愉快だった。誰でも相手に決して既読無視されたくないと思う。そして、相手のことを悪く思ってしまう、友情は悪くなる恐れがある。

困難な時期に閉じ込められて、つらい日々を生き抜いた私たちは生き残るため、今の状況にじっと耐えてなければいけないのだ。どんなに苦しくても、このような難局を乗り越えることができる。また、友情の絆が薄れてきたので、本来の友情を取り戻すため、相互に協力しよう。コロナ後、友情は以前のように戻れると祈っている。きっと今の苦しみは輝きへの歩みである。

I メイト会員からひと言

「コミュニケーションには対面通行が大切ですね。どんなにIT機器が発達し、AIが発展しても、感情表現はできないですから。また、瞬時に対応もできません。やはりFace To Faceのコミュニケーションを大切にしたいものです。」
(藤井 衛)



コロナはチャレンジでありチャンスでもある



石忻然

清華大学大学院

2020年初頭に突発した新型コロナウイルス疫病が世界を席卷し、人々の健康と生活に大きな影響を与えました。それから1年半以上が経った今は、周囲の環境も大きく変わりました。「コロナ後の世界」では、私達の生活様式がさらに変化することが予想できます。したがって、コロナ後の世界で元通りになることを期待するのではなく、代わりに世界にどのような変化が起こるのか、そして一般市民としてどう行動すべきなのか、それを考えるべきだと思います。

疫病が発生して以来、厳しい検疫措置により、多くの学校が休校になり、企業も休業になりました。その結果、「オンライン授業」や「オンライン会議」などの代替手段が主流になりました。オンライン方式には、直接顔を合わせる交流ができない、インターネットの接続性が悪いなどの問題がまだ残っていますが、今では多くの教師や学生、会社員はもう慣れてきました。その結果、「コロナ後の世界」においては、たとえ疫病の危険がなくなったとしても、オンライン会議などの新しい技術がさらに普及し、場合によっては主流になるでしょう。今、もう一度「メディア革命」を迎えようとしており、これは「ポストモダン社会」への移行のきっかけでもあると言えます。ドゥルーズが半世紀前に予測していたように、近代的な「規律社会」は、未来に「在宅勤務」を特徴とする「管理社会」というポストモダンの社会に代わってしまいます。今は、コロナウィルスの流行が主要原因で「在宅勤務」になっていますが、ドゥルーズはまさに先見の明がありました。

コロナの影響においては、国際交流は最も損害を受ける分野だと思います。例えば中国では、昨年から外国への留学生の人数が激減し、国際社会との貿易や民間交流も制限されていました。留学や観光など通常の国際交流はある程度回復しているものの、疫病前の水準に戻るまでにはなお長い時間がかかるでしょう。コロナ後の世界では、中日の交流を積極的に維持していくことが特に重要だと思います。そのために、日中両国の人々が「ポストコロナ時代」になってもお互いを理解し、誤解を解き、視野を広げ、そして日中友好関係を促進することが必要だと思います。

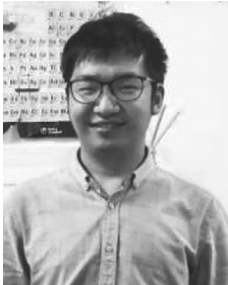
この疫病は、チャレンジであり同時にチャンスでもあると考えています。あらゆる機会をとらえて、疫病に対する積極的なアプローチを行うべきです。世界中が一体となって努力すれば、この疫病を必ず乗り越えられることを信じています。

I メイト会員から一言

石さんとは昨年11月からIメイト交流を続けています。今回の寄稿では、彼の分析力と表現力に改めて感銘を受けました。コロナ後の世界では、さらに積極的に国際交流を進め、友好関係を促進すべきという考えに強く共感します。

(深尾和一)

各国の協力によって新たな世界に



梁宇晗

清華大学大学院

日本の東京オリンピックの開会式では、多くのドローンが地球の形をきれいに映し出しました。コロナに対する全世界の対応には、各国政府の協力が必要だと思いますが、これは長く困難なプロセスです。

エpidemick との闘いにより、各国政府は留学生の入国を制限しています。去年、日本に行くはずだったのですが、今は中国に留まっています。鎌倉の花火大会が本当に見たいですし、北海道にも行ってドラマの主人公が歩いた道を辿りたいです。また、日本の研究室で有意義な仕事をしたいし、日本人学生との交流も体験したいです。私には2020年に学士号を取得して卒業した友人がいますが、彼は日本に行っても大学院の学位を取得することができません。現在、家にいて、インターネットを介してシンガポールの教授と連絡を取り、関連する研究を行っています。去年のある夜、一緒に歩いていた彼は、「日本に行ったらすぐに勉強したい、将来は一緒に雪を見に北海道に行きましょう」と言いました。

中国では、コロナが徐々に制御されてきたので、私の人生は影響を受けませんでした。しかし、科学研究にはグローバルな協力が必要なことがよくあります。周りにはたくさんの友達がいます。ウイルスが怖いので、博士号を取得した後、一時的に中国に滞在するか、シンガポールに行って短期間の学術交流を行い、変化を待ちます。以前は、ワクチンがすべての人間の集団免疫を助けることを期待していましたが、インドからのコロナにより、その希望が打ち破られました。本当の意味でのコロナの流行の解決策を見つけるには、2、3年かかると思います。

コロナが経済の活性化を著しく阻害しているため、各国の経済は困難になり始めており、国際情勢において激しい政治的ゲームが繰り返されています。科学技術の根本的な突破口がないため、世界の生産性の発展は限られており、各国間の競争を特に激しくしています。たとえば、中国と米国の間のますます激しくなる政治的および経済的対立です。新型コロナウイルスの大流行が解決されたとしても、コロナは舞台裏で操る推進者のようなものであり、各国間の違いや対立は止まらないかもしれません。

最後に、オリンピックについてお話ししたいと思います。「東京盆踊り2020」や米津玄師の「パプリカ」など、東京オリンピックに関連する曲が大好きです。東京オリンピックの開会式で演奏されたダークソウルとファイナルファンタジーシリーズの音楽もとても感動しました。東京オリンピックは、日本独自の文化的強さと多大な影響力を示しました。私は日本のアニメ業界がとても好きで、オリンピックでもっとアニメ関連の要素を表示できればいいのと思いました。これは多くの中国人の友人の共通の見解です。

コロナの後の世界は困難に直面しますが、各国は近い将来、自らの国の新たな世界を示すでしょう。バイオテクノロジーの進歩により、すべてが良くなることを願っています。

I メイト会員から一言

梁君とは WeChat を通じて楽しく交流しています。理系の天才肌の研究者の一面、アニメなど日本文化への深い傾倒ぶりが WeChat の投稿からも伝わってきます。早く日本に留学出来る事を願っています。

(西澤逸実)

コロナとの闘いは激しく残酷な戦いである



王岩

清華大学大学院

コロナとの闘いは激しく残酷な戦いである。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、社会や生活に大きな変化が起こる。コロナ後の世界は新しい特徴を持つ。私たちは、以前の日常生活に戻るよりは、「新しい普通」を模索しているのだ。

国際関係について言えば、世界的に新型コロナウイルスの感染拡大傾向が続く中で、感染力が強く新たなコロナ変異株が発見された。生き残りと競合に有利な形質を持つようにウイルスが増殖しようとするのは自然なことだ。それに対して、ウイルスとの闘いはある国だけで成功する可能性はない。各国はコロナ感染症の世界的解決に向けて一緒に努力するところが重要だ。コロナの後で国際的により良い公衆衛生上の安全を守るシステムが構築できることは間違いない。

人間関係について言えば、コロナの拡散を防ぐために多くの人は在宅勤務を行い、オンライン授業を受ける。外出自粛で人々の間に物理的な距離が置かれるが、心の距離はむしろ縮まった。困難に直面しているからこそ、人はより他人を大事にして、お互いに助けあうようになった。社交の場が縮小する一方で、インターネットを利用して他人とコミュニケーションする方法を身につけることが必要になる。国際旅行が途絶えるなかで、インターネットを使ってむしろ文化交流はより行いやすくなり、おそらく開放的な心が育まれていく。

ライフスタイルに関しては、コロナ禍で生活や意識が変化した。外出を控えて人と距離をとって、社会的孤立のリスクと生活面での不安感が高まる。そのストレスに対処するために、困難な状況の中で自分の感情とうまく付き合っていくスキルを身に着けなければいけない。コロナ後、私たちは心も体も強くなれる。

我々はお互いに助け合い、力を合わせている。このコロナとの戦いに勝利するためにはすべての人の協力が不可欠である。グローバル化が進む現在、人類はますます運命共同体になっていく。これからの未来においては、国籍を問わず、人類全体の交流と協力が絶対に必要なのである。

I メイト会員から一言

新型コロナウイルス感染症が世界中に蔓延する中、多様な面で変化が求められています。私自身はそれらへの対応で手一杯でしたが、王さんのコロナ後の「新しい普通」を模索しているという考え方に触れ、視界が広がりました。 (勝 福代)

運命共同体の構築に向かって、国際協力と交流を強化



崔振宇

2007 交流開始

北京第二外国語大学出身→神戸大学修士課程
→大阪大学博士課程満期退学 (在 天津)

新型コロナウイルス感染が、一時鎮静化したように見えてましたが、再び所々に拡大し始めました。対策疲れや変異株の拡散によって、防疫対策効果が前より薄まってしまったようです。幸いなことに、ワクチン接種が各国で進み、ウイルスに弱い層が保護されるようになり、コロナによる影響が小さくなることが期待されます。コロナウイルスは人間に苦痛を与えましたが、人類が手を繋ぐきっかけにすべきだと思い、アフターコロナの世界についてこう描きます。

アフターコロナの世界は「運命共同体」であり、発展と繁栄に皆が恵まれ、問題が生じたら、皆で協力して対処します。コロナウイルスパンデミックで明らかになったのは、地球全体が互いに繋がりが合い、依存し合っており、人類はまさに同じ船に乗って、運命が繋がっていることです。こういう共同体をよく生かせば、物的、人的、情報交流などで、一国の成長は他国にも利益をもたらす、全人類の生活が豊かになります。ただし、問題が起きた時には互いに影響を及ぼし、一国で抑えられても、他国が解決しなければ、問題が延々と続き、結局、人類全体がダメージを受けてしまうことがあります。ですから、疫病、気候変動、環境問題などのような地球規模の課題を解決するために、各国が地球に対する責任を取って、連携して取り組む必要があります。今回のパンデミックでも、各国は鎖国にとどまらず、防疫対策やワクチンなどについて、より緊密に協力してはじめて、克服できるでしょう。

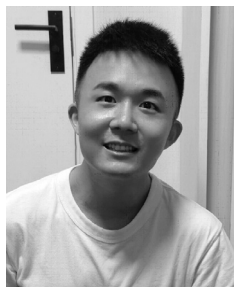
アフターコロナの世界で、人々は「地球村」の住民として交流することで、互いに理解し合い、違いに対して寛容な態度をとるべきです。各国が「運命共同体」である以上、相互理解を深めることは国際協力の基礎として、一層重要になります。そこで、一般人同士の間で、「草の根の交流」により積極的に参加し、外国に対する理解を深化することが大切です。交流で外国の状況を自ら見ることを通じて、偏った情報による誤解や偏見が少なくなり、意見の相違による紛争も避けられます。他国の経験や優秀な文化から学び、自らの成長も促されます。

したがって、感染が収束した後も、私たちは外国のことを知ろうとする姿勢で、地球上にいる皆を共同体にいる友人、隣人とみて、理解し、学び合い、異なるところを尊重し合うべきでしょう。こうして、多文化が共存する地球をよりよくするために、一致団結して努力できればいいです。

元Iメイト（退会）に代わってひと言

昨年 の冊子に「なぜアジアで感染者が少ないか」という崔さんの投稿が掲載され、大変感銘を受けました。今回、パンデミックは「人類が運命共同体」であることを知らしめ、世界を結束させるきっかけとなる期待を表明、私個人の問題意識と完全に一致していて心強いです。
(上 高子)

僕は日本語教育事業に、生きる意味を託そうとおもう



王耕偉

2011 年交流開始

清華大学出身→コロンビア大学修士課程

帰国後英語教育事業

(在北京)

自分自身を見つめ直し生きる意味の再構築によって、この不確実性に満ちたコロナ禍に私は確実な道を見い出そうとした。昨年、新型コロナウイルスの感染拡大で私は2か月に渡り自宅に閉じこもっていた。この間、収入の安定した仕事をやめ、新たな事業としてオンラインでの日本語教育を始めた。このような考えに至ったのは6年間の英語教育事業の経験と日本語専攻に対する未練があったからだ。新型コロナウイルスの世界的パンデミックにより決断に踏み切った。

新型コロナウイルス感染者の重篤化や死亡の情報が絶えず耳に入ってきた。まるで非現実的なニュースにこの現実から生じる混乱と将来への不安。無力さをしみじみと感じた。それは家に閉じこめられ、誰も助けられない無力さだった。しかし、私はまだ少なくとも成長出来ると思い、起業することを自分の成長の第一歩とした。

一個人として凛として生きることができれば、不安な気持ちも抑えられる。この社会全体も同様に全力を尽くして新型コロナウイルスの感染拡大に対抗する中、自分を振り返ってみる時間を作れば新型コロナウイルスの脅威が収束した後、この社会は復帰後ワンランク上に成長できるのではないかと、愚見を述べてみた次第である。

「with コロナの生活を送る中、日本語教育に転身する」ことは、本当に小さくてどうでもいい一個人のことに過ぎない。しかし私は起業途中の夜毎、空を眺めていると、こう考えずにはいられない。新型コロナによる感染拡大の中、自分の生活、事業と生きる意味を再構築するために勇敢な決断をした人たちは、きっと少なくはないだろう。こう思うと、私は将来に対する期待がまた膨らむ。これは、コロナ禍中の「禍福は糾える縄の如し」と言えるだろう。

《編集部註》

上記の原稿は去る1月に入手したものだが、現在新事業の立ち上げに奔走して多忙なため、補足修正には応じられない由、このまま掲載することにした。I メイトからのひとことで、詳しく語ってもらうことにする。

元I メイトのひと言

耕偉君が北大留学を終えたその足で我が家にやって来てからはや8年が過ぎた。滞在中に書き上げた論文は、清華大学教授間でも高い評価で大いに話題になったと、後日ある教授から聞いた。その後のコロンビア大学留学時には私も少なからず寄与したと信じている。

そのお礼にと故郷成都に招かれ、彼の母親は「これも運命ね」と歓喜し、お土産に唐辛子をどっさりくださった。自身で立ち上げた数千人相手の英語ネット授業を辞めて、今度は中国でもまだ誰も手を付けていない、若者に人気のシュミレーションゲーム形式の日本語学習事業を始めた。その事業でプロに交わって声優になる夢も実現してしまった。そこに私の書も加えられた。私にできるお手伝いはもうこれくらいになりました。(藤原ひさ子)

困難だが、絶対負けぬ：ベトナム人のコロナウイルスとの闘い



ダオ・ティ・イエン

2012 年交流開始

貿易大学出身→民間企業の社長秘書(在 ハノイ)

ベトナムは今年の 6 月上旬から新型コロナウイルス禍の第 4 波を迎えています。政府は感染者の急増を抑えるために、社会隔離延長を中心とした感染防止措置の厳格化を行う事を決定しました。私は市民の立場からみて、その対策は自分の生活に大きな影響も与えますが、現時点は必要だと思えます。この状況では、ベトナム人の愛国心はこの困難な新型コロナウイルス禍で強くなってきました。「この戦いではだれも取り残されないように努力する」とヴー・ドゥック・ダム (Vu Duc Dam) 副首相はベトナム人の精神を刺激して、できる限り民族を支えることを目指して行動するよう励ましました。

しかし、私たちが一番心配であるのは医師や看護師の健康問題と感染拡大により収入が減少し苦境に立たされている貧困世帯の生活です。この禍において医療機関の人事はもっとも重要な役割を果たしています。2020 年の初めから全国の病院と医療専門の大学は経験豊富な医師、看護師と大学生を感染者数が急増した地域へ送り出しましたが、これらの人々は自分の世話に時間がかからないように出発前は男女にかかわらず髪を切ることになっています。彼らは感染者の命を助けるために無休で防護服に身を包んで患者の容態を観察したり救急処置を行ったりして、責任が大きいです。先日、医療省の職員の話聞いて、私はお医者さんがどんなにたいへんかよくわかりました。

また、コロナウイルス禍で最もマイナスの影響を受けたのは仕事をなくした労働者にちがいありません。お金が儲けられなくなったので、食料も買えないし、家賃も払えないし、社会隔離の指示によって故郷へも帰れなくて大都市に取り残されています。苦境に立たされている貧困世帯を支えるために、地域のチャリティ団体や個人主催の支援活動があちこちで行われています。全国各地で次々に「自動コメ配り機 (コメ ATM)」と「自動マスク配り機 (マスク ATM)」が設置されていて、要る人は自由に取って使うという方法が盛んに実施されています。農産物が豊作である辺りでは、農民たちは野菜と果物を無料で隔離施設と病院へ運送して隔離中の人にあげます。それに加えて、ホテルオーナーは施設を政府に貸し出して隔離区建設に役立てています。私はただの普通のベトナム人ですが、財政省傘下の新型コロナウイルスワクチン接種基金に少し寄付し、近所のお姉さんたちと一緒にお米やインスタントラーメン等の食べ物を買って貧乏な労働者に配り始めました。

誰もが、ベトナムが早期に新型コロナ禍を制圧し、人々が普段通りの生活に戻れることを望んでいます。この戦いは長期的に全力を尽くしていけば必ず勝利を手にすることができると信じています。

元 I メイトのひと言

イエンさんと I メイトになって 9 年近くになる。その時彼女はまだ 20 歳の大学生だったが、今はもう息子さんもいるキャリアウーマン。当初は日本語のサポーターという気持ちで始めたが、気がつけばつながっているのが当たり前の身内のような存在になった。話題も、家庭や社会といった大人の視点が多くなり、学ばされることが多々ある。表面上の「国際交流」ではない深い絆が生まれたことに心より感謝している。

(宮崎いずみ)

技能研修制度の見直しで、日越関係の強化を



ダム・ホアン・ジャン 2012 年交流開始
貿易大学出身→日本語学校等経営 (在 ハノイ)

最近ベトナムでよく目にするようになったのが、送り出し機関と技能実習制度に関するニュースです。既に採用が決定している実習生が日本に行けないことと、新規の面接もほとんどないという状況が続いているため、多くの送り出し機関の経営が苦しくなり倒産するところでもあります。連鎖的に、訪日を待っている実習生たちに被害が及び問題化しているためです。

また、夢をもって日本に渡った実習生たちになかには、多くの問題に翻弄されている者もいるという現実もあります。

日越両国政府は協力して、コロナ禍で両国に人や経済の動きが制限されている今をとらえて、多くの問題や課題を含有する現在の技能実習制度を抜本的に見直し、新たな技能実習制度を構築を加速しようとしています。今こそ契約内容や現場運営の実態を再確認し、適切な運営体制の再構築をするべき時期でしょう。これからもベトナム人が日本を選んでくれるためにはどうしたらよいのかも併せて考え、実行していくことが必要だと考えます。

今後、ベトナム人のみならず日本への外国人就労在留資格は、多くの課題を抱える「技能実習」から新しく生まれた「特定技能」への移行が進むと思われます。まず第一にコロナへの収束が必要なのは言うまでもありません。うれしいことに、ワクチン接種や治療薬の開発により近い将来の実現が期待できそうです。二つ目に、在留資格「特定技能」の新規取得者数が「技能実習」取得者数と同等、もしくは接近し、「特定技能制度」が認知されることが挙げられます。三つめは、現在の送り出し機関、監理団体、受け入れ企業の現場の実態や管理体制を厳格に調査して、適格/不適格に区分けして、適格団体・機関・企業を通してのみ、在留資格を与えるということです。このようにして、「留学」「技能実習」「特定技能」を明確に区分けし、今後の在留外国人労働者の受け入れ態勢が構築されることとなると考えています。

ベトナム人は日本が大好きです。そして日本人もベトナムに好印象を持ってくれていると信じています。お互いがよい関係を保ちながらお互いに成長していけることを心から願っています。

そしてアフターコロナには、私の第2の故郷・日本に新しく増えた家族を連れて行って、たくさんの日本の「家族」に再会したいと夢見ています。

元Iメイトのひと言

勉強し始めたばかりの日本語のメモを書き込んだ紙を握りしめてホテルに迎えに来てくれた一生懸命なダンくんの姿が9年後の今でも目に焼き付いている。その彼が日本留学を経験、修士を習得し、ビジネスの世界でも活躍していることを本当に誇らしく思う。今回書いてくれた日本の研修制度についての文章は、語学学校経営やその他のビジネスにかかわる中で経験や学問に裏付けされた日越の人々への深い愛情を感じさせてくれる。(森 郁子)

エマちゃん誕生！日泰の懸け橋になれるように育てたい



仲村クスマー（旧姓 タイニコン） 2012 年交流開始
タマサート大学出身→琉球大学修士課程→翻訳者

今年 6 月 30 日に長女が生まれました。初めてのお産なのに、コロナのせいで家族の立ち合いは許されず、寂しくて不自由で不安な日々でした。娘を日本とタイの懸け橋になる人に育てたい、バイリンガルにしたいと、今から母親はタイ語で父親は日本語で話しかけるようにしています。

実はアジ風の奨学生として御茶ノ水女子大学に研究生として通学していたころ、つらいことがあって精神不安定になりました。大学院は琉球大学へ進み、2 年間修士課程で「グローバル時代における伝統文化の継承意識」を研究し、そこで今の主人と出会って、結婚してから東京へ引越してきました。今もときどき落ち込むことがありますが、アジ風のイベントに参加したり、事務局のみなさんから励ましをもらったりして、現在はとても前向きに子育てを中心に生活しています。仕事は漫画やアニメの翻訳ですが、今は産休をとって自宅で子育てに専念しています。

日本は住みよい国だと思いますが、よく「ストレス社会」と言われているそうです。確かに電車の中の光景を見ると皆さん疲れすぎだと思います。私が働いている会社は職場環境はいいのですが、通勤時間が長いことや満員電車など、通勤でかなりストレスたまりました。テレワークになってからの 1 年半はステイホームになったので、その点はラッキーです。アフターコロナでもこのまま自宅勤務が続けられたらいいな、と願っています。

外国人差別に関してはまだ感じます。最近も外出の時、スイカの残額不足で駅員とトラブルがありました。スイカに書かれた私の名前を見て、外国人だとわかり、それまで敬語だったのが、急にため口になり、ぞんざいな態度に変わりました。しかし病院などで非常に良い対応してもらったので、そういう差別を感じた時、それまでは「アジア人差別」と思ったりもしましたが、最近は「この人特有」と受け止め、日本人全体という捉え方はしなくなりました。

タイはもう 3 年以上帰国できていませんが、いつも関心がありニュースをネットで見えています。こんなひどいコロナ禍でも、庶民は規則を守り、互いに助け合い、チャリティ精神に溢れているのがわかります。半面スキャンダルは富裕層や芸能人などに多くみられ、日本や中国のように革命や大戦を経っていないだけ、既得権益の体制派の支配が強固であると思います。コロナ禍で、この格差が広がっているような気がしてなりません。

コロナが収まったら、娘をつれてタイへ帰国し、「子をもって知る親の恩」を両親に伝えたい。これまでは何でも実行に移すのに躊躇する性質がありましたが、今は子供をもって強くなった気がするので、実行力が持てる気がします。今という時間を大切にしたいと思います。

（聞き手 上 高子）

元 I メイト（退会）に代わってひと言

第一回アジ風奨学生のクスマーさんとは、学部生の時から数えると 9 年になる。さまざまな場面でアジ風事務局との接触が多く、まるで自分の娘のように理事メンバーで支えてきた。彼女の国際結婚（今やちょっと陳腐な言葉）の成功を心から応援している。（上 高子）

国民の一致協力と国際協調で乗り切る



ゲン・バン・ブウ 2016 年交流開始
貿易大学出身→日系企業勤務（在 ハノイ）

ベトナムでは去年からコロナが続きました。ベトナム政府は非常に厳格な予防措置を行い、社会的距離や検疫やマスク着用などの法令を制定しました。普通の生活にはなかなか戻れず、色々な困難が生じました。しかし、困難な時期にも、国内の人々の間には親愛、共有がより明確に現れていると感じました。パンデミックが広がるのを防ぐために周囲の人々が社会的距離の法令の厳守に取り組んでいることに気づきました。パンデミックを防ぐという共通の目的に国民が一致しました。人々の間には愛情、共感も見えます。

ある日、テレビで感動的なニュースを見ました。ある女性医師が、隔離地域の人々が困難な時期を乗り越えるのを助けるため、現場に行きます。救急車に乗る前、彼女の子がインスタントラーメンをいくつか渡し、「お母さん、気をつけて。空腹にしないでください」と言いました。母親は子供を抱きかかえ、「すぐに家に帰るよ」と言って涙声になりました。どの母親も幼い子供と絶対別れたくないですが、緊急事態のため、彼女は個人的な気持ちを犠牲にして、共通の目的のため行動しました。

コロナを通じて国と国の間の応援にも気づきました。ベトナムは日本や韓国や中国やアメリカやキューバなどから多くの寄付を受けました。お金、薬、医療機器を受領しました。ベトナムもマスク、手袋などを他の国に応援として送りました。他国との友好的で平和な関係の構築に貢献しました。最近、ニュースで見ましたが、「COVID-19 ワクチン・グローバルアクセス」(略: COVAX) メカニズムは、ワクチンの開発を加速し、診断・治療製品を製造するためのグローバルな協力イニシアチブです。世界中で迅速で公平なアクセスを確保します。日本、米国、カナダ、英国、ドイツなどの先進国は、この病気に苦しむ世界の人々に公平にワクチンを分配することを約束しています。途上国を含むすべての国で、ワクチンにアクセスできるようになります。より良い世界を築くため、国際社会が「運命共同体」であることを強く認識し、国境を越えて科学的知見を共有し、平和を希求するようになれば、と私も感じました。

アフターコロナの世界では、パンデミックの余波を克服し、生活は日常に戻ると思います。自由に動き回り、自由に交流できるように祈ります。困難な時期を乗り越え、前向きに生き、周りの人を理解し、平和で人道的な生活を共に築いていきたいと思っています。

元 I メイトのひと言

5 年前のアジ風入会後、最初の I メイトとなったブーさん。この寄稿の件で久しぶりの交流機会ができ、近況やオリンピックの話題で昔に帰りました。今は日系企業でご活躍中。コロナ禍が終息すれば是非再会を果たしたいです。(須賀智之)

自分の人生を左右したコロナウイルスに憎しみと感謝



レイニ ドウィ アングライニ 2017 年交流開始
パジャジャラン大学出身→日系商社着任待機中

将来日本語学校を経営する目標に向かって日本の大学院に進学する意志が固まり、進学するために一所懸命勉強していましたが、コロナで人生の目標を見つめ直しました。

大学を卒業した後、インドネシア拠点の日本大手 IT 企業からオファーを受け、奨学金の試験を待ちながら、しばらく仕事をすることにしました。

IT 企業での仕事は日本語の会議で忙しく、日本語を磨くのに凄くいい機会ばかりでした。しかし 4 か月後、取引先と会議が終わったら、急に上司から「会社に戻らず直帰してください。明日から在宅勤務だ」というメールが来ました。これはコロナの始まりでした。

そのあとは奨学金の試験が中止になり、いろいろな事が上手くいけなくなり、深い絶望感を味わいました。夢を叶えるより、生計を立てなければならないという現実と直面させられました。そのときはこれから何をすればいいかわからないため、I メイトの古海さんに相談してみました。そして当時の IT 企業で数年間働いてから日本に転職するか、今のうちに再就職するかという 2 つの選択肢になりました。

確かに IT 企業で働き続けてもいいかもしれませんが、早く日本に戻りたかったため再就職を決めました。ネットで日本にある企業、約 8 社に応募した内、3 社では最終面接まで合格したが、コロナでしばらく外国人を採用できないという理由で不採用になりました。この時は本当にコロナを憎いと思いました。コロナが収まるまで待つしかないかと思い始めたら、ある日、日本にある商社から「一度入社選考に参加してみませんか？」というメールが来ました。

4 か月をかけて書類選考から最終面接まで参加し、全体の選考プロセスにおいて最高得点で採用されましたという通知が来た時、大変嬉しかった。その後、IT 企業での仕事を辞めて、日本に行けるのを待ちながら、ビジネス日本語の勉強やフリーランスとしての仕事をしております。こんな機会に出会えてコロナと直面したことを憎むというより、感謝したい気持ちになっています。

現在コロナですぐ日本に行けなくても、コロナ禍の中で日本で正社員の仕事が決まったことに本当に感謝しております。そのため日本に着いたら、定年まで真面目に働きたいと思い、日本語を生かしながら、自分を磨き続けて、キャリアアップしたいです。そして大好きな日本で長く居られるように、最終的には自分の力で日本国籍を取得する事が大きな目標となりました。

元 I メイトのひと言

レイニさんが 1 年間の名古屋大学留学から帰国したのは 2019 年 9 月だった。留学中は一緒に交流会に参加し、我が家にも来てもらった。帰国後も日本への思いが強く、努力の結果、日本の会社に就職が決まった。日本に帰ってくる日を首を長くして待っている。

(古海正子)

当たり前の生活を取り戻したいだけ



ファティマ ジューリア

2017 年交流開始

パジャジャラン大学出身→日系自動車部品製造会社勤務

(在 ジャカルタ近郊)

2018 年 7 月に大学を卒業して、6 か月間のフリーランスの翻訳した後、日本の自動車部品製造会社に就職しました。部品の生産工程や現場の管理方法の勉強をしながら、通訳者をやってきました。会社での日々を、いつも楽しみにしていました。色んな人に出会えて、色んな知識を交換して、少しずつ仕事のやり方を覚えながら、人間関係を深めます。ローカルスタッフだけではなく、日本人スタッフもいて、日本語も直接学ぶことができました。毎日、会社の人たちと笑顔で仕事に励む…これはパンデミックが始まる前のことでした。

入社して 1 年目、2019 年の年末にコロナウィルスが中国で発見され、世界中が緊迫した状況になりました。インドネシアでは 2020 年 2 月の頃、初めての感染者が報告されました。そこから政府は緊急事態宣言やステイホーム提案、ロックダウンなど感染拡大を防ぐためのさまざまな方法を打ち出しました。学校の授業はオンラインで行われ、会社は在宅勤務、実家に帰るのが禁止というルールが徹底されるようになりました。会社の中でも、感染防止のために机を離れ離れにしてパーティションを付け、出勤する人も限られ、会話は距離を取って 1 分以内だけ。アルコール消毒を忘れず、フェースシールドやマスクはもちろん、自分を守り他の人も守るために、息苦しくなるほどの方法までやってきました。これぐらいやっていたら、数週間で終わるんじゃないか…との期待は外れ、あれから 1 年以上が過ぎましたが、収まるどころか、逆に悪化する状況になってきました。誰もこんな状態を望む人はいません。早く元の生活に戻るため、もう少しだけ頑張りましょう。

私の夢…家族と大切な時間を過ごしたい、友達とどこかに旅行したい、日本に行って友達に会いたい、会社の人たちの笑顔を見たい、マスクやフェースシールドや距離無しで自由にしゃべりたい、こんな当たり前の生活を早く取り戻したい…今はそれだけです。でも、将来は日本の本社工場で研修を受け、日本語だけでなく日本スタイルの仕事のやり方を学び、またインドネシアに戻り日本で得た知識を活かして、インドネシアでの会社の発展に役立ちたい…これが私の本当の夢です。夢は、努力によって必ず実現できることを信じて頑張ります。自分を守り、家族や友達や大切な人たちをコロナウィルスから守りましょう。この原稿を書きながら、皆さんの健康を祈っています。

元 I メイトのひと言

入社 2 年を経過し、だいぶ、日本企業の空気にも慣れてきたようですが、やはり日本語は最大の壁のようで、最近は敬語の使い方など新たな悩みにも直面しているようです。そんな時は、対話アプリを使って即席の日本語教室を開いています。(斉藤利治)

僕のヒロシマ訪問記・もっと国際協調を！



王彦珺

2019 年交流開始

清華大学大学院出身→東京工業大学修士課程

→コンサルタント企業勤務（在北京）

2019 年～2020 年の間、留学生として滞日し、ほとんど引きこもって寮で過ごしました。今思えば、コロナのせいで登校しなかった日々はむしろ充実した毎日でした。スマホアプリを見てトレーニングをしたり、自分で動画を作ったり、投稿したり、楽しい事がたくさんありました。

修論が合格した後、何処かにいきたくなり、卒業旅行として広島に行きました。ちょうど原爆投下後 75 周年の日、今の広島の人たちはどんな気分で過ごすのだろうと考えたのです。原爆ドーム前のホテルに泊まりました。8 月 6 日の朝、爆心地で市民と一緒に黙祷しました。その後広島平和記念館に向かいましたが、安倍総理大臣の式典参加のため、外で待ちました。その時、デモ行進の市民を見ました。彼らは被害者の子孫として、「憲法第九条改正」に反対し、式の中止を訴えていました。現場でデモを見るのも初めてでした。外国人の私から見ると、この日にやるのはちょっと乱暴ですが、安倍総理に伝えることが、デモの目的だったのでしょうか。

式が終わって、やっと記念館に入れました。確かに原爆被害は酷くて、胸にこたえましたが、「平和を求める」という感覚は受けとれませんでした。単純に被害者の惨劇を大量に展示したのみで、何故そんな酷いことが起きたかを考えさせる展示ではありませんでした。残念なことに、事実ではないと感じる事が、一件ありました。ボードの「米ソの中距離核戦力全廃条約が破棄されたのは、中国の中距離ミサイルの大量配備が背景にある」というアピールが、目に刺さりました。これは真実ではないと思い、記念館から出たあと、中国大阪総領事館にメールで報告しました。幸い中国領事館の係員がこの件を重視し、二週間後ボードからこの部分が削除されました。2019 年、記念館への 176 万人の訪問者の中に、52 万人の外国人がいました。広島平和記念資料館は彼らに間違った「中国脅威理論」の考えを伝えました。平和を伝えるべきなのに、とても残念なことです。

今、まだ世界はコロナのまっただ中です。デルタ株、ラムダ株という変異したコロナウィルスには、再感染の危険があります。今こそ、各国が不公正な競争を放棄し、非難をやめ、共通のコロナ防止計画を策定するために協力する時です。そのためには、誤った思い込みを捨て、お互いに相手をしっかり理解し、共通の認識、理念のもと、手をつなぐ時です。広島での経験で、その大切さを身をもって感じました。アジ風の活動を通して、生身の日本人と交流出来たことのおかげでもあります。自国での活動に活かしていきたいと思います

元 I メイトのひと言

王君は、広島での体験を伝え、若い率直な考えをぶつけてきました。彼が意図したのは、自国を正しく理解してほしい、そして彼自身も思い込みに捉われないグローバルな視点に立ちたいという願いだと思います。そんな彼を、これからも応援したいです。（島村美智）

人間は小さな存在・違いを乗り越える団結と相互理解を！



陸啖睿

2019 年交流開始

清華大学大学院出身→東京工業大学修士課程

→仏系自動車用部品会社勤務（在 上海）

激しいコロナとたびたびの気候災害によって、人々の日常生活は、中断された。家も家族も失った。人間の小ささと無力を感じました。一方、オリンピックの開催により暫くの間つらい外界を忘れ世界中の人々がスポーツに注目しています。オリンピックの目的は、友情、連帯、フェアプレイの精神を持ち相互に理解することにより、平和でよりよい世界の実現に貢献することです。つまり、文化・国籍などさまざまな違いを乗り越え、いかなる形の差別もなく誰もがスポーツを通して心身を向上させる機会があります。団結と尊重により小さな人間達が、粘り強く共生することができます。

人間は小さな存在ですが、何度も限界を越えており簡単にはあきらめません。私の親友は、バドミントン選手です。今回のオリンピックに出場しました。競技場での彼の素晴らしいプレーと表彰台での輝かしい姿は人々を感動させました。でも、親友として私が見てきたのは彼の、20年間のハードトレーニングと全身のけがです。オリンピックの前に、靭帯断裂の手術を受けました。その後、苦痛を我慢しリハビリを行いやっとコートに戻って来ました。それは人が限界を超えて行く姿ではないでしょうか。

人間は小さな存在ですが、さまざまな美しさや文化を作っています。オリンピックで、ぽっちゃりしたウエイトリフターが、中国の皆に愛されています。女性の伝統的な容姿は捨てても筋肉と強さを合わせ持つ女性も美しいです。自信・勇気・強さは大切なものですから。

人間は小さな存在ですが、団結すれば力は大きいです。7月河南鄭州で、1000年に一度の豪雨が発生しました。ある女性が洪水で流されている時、群衆の見知らぬ人々が、腕を組んで命がけで彼女を救いました。その様なことは、色々な場所で起こります。国籍・人種・政治などさまざまな違いを乗り越える団結と理解は、オリンピックの精神であり、人間同士の共存のテーマです。

新型コロナのせいで、国の繋がりが断ち切れ人々の中の誤解を深めました。そうすることで、新型コロナを打ち負かすのはもっと難しくなります。新型コロナは、特定の個人や国の責任ではなく全人類が、一緒に取り組むべき問題です。オリンピックが、人々に啓蒙をもたらし各国の文化と実情を尊重し、コミュニケーションギャップを取り除き、「人類運命共同体」の考えを構築し、必ず一緒に問題を解決しなければなりません。

元 I メイトのひと言

陸さんお久しぶりです。仕事の方は上手くいっていますか？二胡は時には弾いていますか？オリンピック楽しんでくれて嬉しいです。友達が努力してメダルをとったのですね。人類は運命共同体だという主張、大賛成です。

（石橋順子）

あとがき

理事長代行・OBOG事務局担当 上 高子

2020 年度から I メイト交流担当を奥山理事に引継ぎ、それまで手薄だった OBOG 事務局の強化に取り組みたいと考えました。卒業後学生たちが社会人になり、あるいは大学院へ進学しても、ずっと個人的につながっている I メイトペアはたくさんあります（ここでは交流年の古い順番から紹介しました）。

OBOG には、日本語支援という枠を超え、会の理念である「多文化共生」（異なるものが、互いを認め合って共存する）へのアイデンティティを継続してほしい、という願いがあります。マスメディアなどさまざまな情報源から入手するものと、心に届く個人的な I メイトとの交流による情報には、しばしばギャップを感じることもあるからです。また日本人会員にとっては、学生との交流で、鏡に映った自画（日本）像を見ることができます。微力ながらも、このような相互理解が世界平和に貢献すると信じて、彼らとのコミュニケーションを続けようと思っています。

アジア風創設後 18 年間、アジアの変化はすざましいものでした。どの交流大学も学生たちが所属の専攻は「日本語学科」というような括りではなく、グローバリゼーションに適した名称になり、世界全体を概観する比較文化的な学問になりつつあります。私たちも世界の潮流に乗り遅れないよう、グローバルな視点を持ちながら、同時に、優れた日本文化の伝承や、誇るべき価値観を伝えることで、多文化共生の視点も忘れないようにしなければなりません。

けれども世界は、自分たちの価値観が一番正しい、自分たちの信じるものが絶対だ、という主義主張同士がぶつかり合っているのが現状と受け取れます。「和洋折衷」や「神仏習合」に慣れている日本人の私は、そういう国々や人々に、「対立することさらに、辛抱強い対話（コミュニケーション）を通して、折れ合い点をさぐり、譲り合う生き方を模索しませんか」と言いたいのです。あれかこれか、あるいは YES か NO か、という二者択一ではなく、もっと柔軟に、タフに、Happy Medium（中庸）をあきらめないで追い求めたいと切望します。

私自身が夢見るアフターコロナの世界は、と尋ねられたら、平常時には「選択の自由がある個を尊重する社会」であり、非常時には「全体の福祉や益を優先する社会」の実現が望ましい、と答えます。柔軟な是々非々の世界を夢見ます。寄せられた原稿を読んで、彼らがアフターコロナの時代において、アジアの国々の懸け橋になってくれる、寛容で柔軟な人材である、と確信し大変心強く思いました。

最後に、I メイト会員のみなさんへ、学生たちの日本語表現の修正とコメントをありがとうございました。これからもよい交流が長く続きますよう、願っています。

別冊 I メイト便り 第 17 号

「I メイト交流の愉しみ」

ーアジア風に乗って I メイト交流は広がるー

特集:アフター Covid-19 (新型コロナウイルス)

☐ 発行日 2021 年 9 月 12 日

☐ 発行者 NPO 法人

アジアの新しい風

〒154-0016

東京都世田谷区弦巻 2-18-22-414

H P : <http://www.npo-asia.org>

E-mail : new-wind2006@npo-asia.org

☐ 印刷 PCC 大洋
